



裁判員等経験者との意見交換会を行いました

東京地方裁判所

令和5年12月6日、裁判員等経験者6名と法曹三者（裁判官、検察官、弁護士）との意見交換会を行いました。

今回は、「裁判員裁判に参加しやすくするための工夫」、「裁判員制度の周知方法・広報活動の在り方」、「裁判員裁判（審理・評議等）の運用改善」をテーマに、ご意見やご感想を伺いました。

●裁判員裁判に参加しやすくするための工夫について

裁判所から突然手紙が届くとびっくりしてしまう。裁判員裁判の選任手続の流れを知ることができるような広報活動があれば、受け止められやすいのではないか。

私の参加を機に就業規程を変えてもらって特別休暇の取得が認められた。

選任手続から第一回公判までの期間が短いと予定が立てられない人もあるので、ある程度期間を空けてもらえると良い。

事前に送付された冊子の内容である程度イメージはできたが、話し合いの雰囲気などを動画でも見られると参加のハードルが下がるのではないかな。

参加には前向きな気持ちでいたが、会社になんて言おう、休みはどうなるのか、といったところが一番気になった。

専門職のため仕事の補充が心配だったので、裁判員候補者名簿に載った段階で、審理期間が短いとどのくらいで長いとどれくらいかといった見通しがイメージできると会社に説明しやすかったと思う。



● 制度の周知方法や広報活動の在り方について



そんなに心配しなくていいんだということをもっとアピールできると良い。自分の意見をどうぞ言ってください、という場なんだということが分かったら、もう少し来やすいと思う。

補充裁判員の存在も知らなかったもので、自分がもし急に来られなくなっても対応できるということが予め分かっていたら良かったと思う。

ドラマなどで見る裁判の重苦しい雰囲気が無意識に刷り込まれているところがあると思う。

何をしたいのかさっぱり分からないという印象が強かったので、最初の段階で何も準備してこなくて大丈夫ですと強めに言ってもらえると、一日目からもう少し落ち着いて参加できたのではないかな。

裁判官はすごくハードルの高いイメージがあったが、私たちの話を否定せず最後までよく聞いて、分からないところは説明してくれたので、気持ちよく過ごすことができた。

学校などで裁判員裁判の雰囲気などがある程度教えてもらっていると違うと思う。参加しやすい雰囲気だということを伝えるため、多くの人の目につくところにPRできるものが置いてあると良い。

参加前は不安になったが、裁判官や他の裁判員がいろいろな話をしてくれて少しづつ不安がなくなり、最終的に参加して良かったと思えた。そういう点を、学校や会社でアピールしていければ良いと思う。

毎年11月には裁判員候補者名簿記載通知が届くという広告があれば、準備もできるし、裁判員制度の存在を毎年目にする機会があれば少しずつ浸透していく気がする。

参加するための特別休暇制度がもっと整備されていれば参加できる方が増えるのではないかな。各企業もフォローしましょうという案内ができたなら辞退する方も減るのでは。



実際に参加した人の意見が一番有効だと思うので、18歳19歳の人たちに多く参加してもらって、若い人が選ばれた方の体験談を聞けるような状況を作ると良い。

● 裁判員裁判（審理・評議等）の運用改善について

冒頭陳述での検察官の説明は非常に分かりやすかった。弁護側もストーリーのあらすじ・全体像が分かる説明があると良かった。

冒頭陳述に証拠の通し番号を書いてもらえると、評議の際に当事者の主張と証拠の結びつきが分かりやすかったと思う。



メールやSNSメッセージの取調べは、スクリーンショットを動画のように時系列で流していたので分かりやすく、量は多かったがそれほど負担には感じなかった。

マスクを着用していたため他の裁判員等の声が少し聞き取りづらい場面があったので、今後はその辺りの配慮もしていただけるとありがたい。

弁護人の弁論は物語性があって、熱量を感じ腑に落ちる内容だった。分かりづらいところもなかった。

評議ではとても話しやすかったし、他の人の意見も十分聞くことができ、裁判官もきちんと説明してくれて雰囲気も良かった。良い体験だった。

評議は想像以上にしやすかった。誰かの意見に寄せなければいけないという雰囲気にならないよう、また、意見が偏ることがないように工夫されていた。

司会：向井裁判官

たくさんのご意見をいただき、今後の改善に向けて大変参考になりました。みなさんのご意見をエールと受け止め、より良い裁判員裁判の実現と、より参加しやすい裁判員裁判の実現に向けて、さらに努力していきたいと思っています。

